

水とわたしたち展

水道週間の関連行事の一環として、水道についての理解と関心を高めたいと、市内の小学生のみなさんから水に関する図画、習字、作文、標語を募集しましたところ、889点の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。審査の結果、次のみなさんが入賞されました。おめでとうございます。

この水とわたしたち展が、こどもたちの情線を育み、想像力や表現力の「作品発表の場」としても、今まで以上に定着し、また、こどもたちの励みになれば幸いです。

来年度以降も、みなさまのご応募を心からお待ちしております。

今号は、金賞作品と入賞者を紹介します。(敬称略)

図画の部 ● 金賞

西谷 果夏
(太田小学校3年)



習字の部 ● 金賞

加藤 佳奈子
(栗林小学校6年)



香川県では大きな水不足になったことで、その大変さを目の当たりに体験したからです。雨の降らない日が続きました。輝く太陽をうらめしく見あげたり、新聞に掲げられる早明浦ダムの貯水量をほらはらしながら見つめたりする毎日でした。給水制限が第二次、第三次と進められて行く中で、このまま止まってしまうたらどうなるのだろうと、水のなくなる生活を想像すると恐怖に震えそうになりました。

まず、家では、米のとき汁や風呂水の再利用、水の買い置きをして必要最小限しか使わないようにしました。学校では、水泳の授業が中止されたり、じゃ口の数を減らし掃除も水関係のものはあまりできなくなったりしました。わずかに降る雨水をあるだけのバケツにためて、それを人差し指の第一関節までだけ入れてのぞきながけてました。汚れがひどいと使う水の量が増えることにも気が付き、なるべく汚さないようにしようと心がけも生まれました。

ちょうどそのころ、母から、私が生まれた平成六年に起きた今世紀最大の「大干ばつ」の話の聞ききました。高松市では給水制限で夕方四時から夜の九時くらいの五時間足ら

ずしか水が出なくなり、お風呂やトイレなどでとても不便な生活を強いられたそうです。さらには、せっかく育てた農産物が枯れはじめその被害は一ヶ月間で約十三億円もの損害になったそうです。水不足は、生活が不便になる上に、米や野菜、そして、人間と同じく水や野菜を必要とする動物に関係する肉や牛乳といった物の物価まで高くなり、ますます苦しさで追い打ちがかけられることがわかりました。一滴の水が私たちの生活の基盤となっていることを改めて思い知らされた話でした。

瀬戸内地方はもとと地形と季節風の関係から降水量が少ないところ。特に香川県は大きな川もなく最も水不足な県と言われていることも学習しています。昔からいくつものため池を作ったり、香川用水の建設をしたりしたのも水不足にならないようにするための工夫です。香川用水は、高知県の早明浦ダムや徳島県の吉野川を利用して、香川県民に大切な生活用水を運んでくれるかけがえのない水路です。しかし、それでも香川県の水源として十分ではないのです。

昨年の六月「四国の水がめ」のある高知県に宿泊学習で行きました。山登りや川遊び

の計画を立て、歌やゲームをしながらの楽しいバス行程でしたが、途中から感嘆の声に変わりました。脈々と流れているはずの吉野川上流の川は、川底をえぐるように細い細い川筋が流れていただけだったのです。赤茶けた山肌が永遠と続き、とても「水がめ」とは思えない状態に私たちは暗い気持ちになりました。宿泊場所の白滝でも、滝とは名ばかりの細い一筋の流れにすぎませんでした。山登りではおいしい水が流れ出ると言われる水飲み場さえ少なく、わずかな水をみんなと分け合って飲みました。その一滴のおいしかったことが今でもどの奥に記憶として残っています。宿泊学習の帰り道、橋の上から川を見下ろすと旧大川村役場が二階部分まで姿を現して、早明浦ダムが悲鳴をあげているようで無言のままにたたずむだけでした。

幸いにも、台風がもたらした大雨によって、私たちの心配した水のない生活からは免れることができました。まさに、自然の偉大さを実感した恵の雨でした。でも、いつまた水不足になるかわかりません。心の中で、早明浦ダムの底に見えた役場の姿を思いながら水道の蛇口をひねって「命の源」だから、水は大切な「命の源」だから。

作文の部 ● 金賞

村上 佳帆理(栗林小学校6年)

「水の大切さ」

水の大切さについてどれだけの人が真剣に考えているでしょうか？蛇口をひねりさえすれば出てくる水、ふん水からほとぼしる水。その一滴一滴が「命の源」であることをもっと強く認識すべきなのです。

私も水が大切なものだと考えられることができるようになった二人です。それは、昨年

入賞者一覧

● 図画の部 (15名)

金賞	太田小学校3年	西谷 果夏
銀賞	鶴尾小学校2年	齋藤 雅人
銅賞	十河小学校6年	千尋
栗林小学校1年	平川 貴大	
中央小学校2年	岡 大地	
鶴尾小学校2年	前田 滯奈	

● 習字の部 (15名)

金賞	栗林小学校6年	加藤 佳奈子
銀賞	太田小学校3年	松原 萌
銅賞	栗林小学校5年	中條 加奈子
栗林小学校1年	東條 智里	
栗林小学校1年	高本 莉奈	
太田小学校2年	桑井 晴佳	

● 作文の部 (6名)

金賞	栗林小学校6年	村上佳帆理
銀賞	栗林小学校2年	熊野 美月
銅賞	栗林小学校6年	中村 未菜実
栗林小学校4年	川島小学校4年	宮井 あすか
下笠居小学校4年	栗林小学校4年	井戸 美咲
栗林小学校4年	栗林小学校4年	岡 由希

● 標語の部 (15名)

金賞	香川 侑大
二番丁小学校3年	香川 侑大
二番丁小学校2年	銀賞
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校1年	栗林小学校1年
二番丁小学校1年	栗林小学校1年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年
二番丁小学校2年	二番丁小学校2年

平成18年度 水質検査計画を公表しています

安全で良質な水道水をお客さまにお届けするためには、適切な浄水処理を行うとともに、お届けする水道水の安全性を確認するための水質検査が不可欠です。

そこで、水道局では、適切な水質検査を行うために、毎年水質検査計画を策定し、ホームページ上で公表しています。水質検査計画では、水質検査の項目・箇所・頻度などを詳しくまとめています。なお、この水質検査計画は、お客さまの御意見や水質の状況変化により、毎年見直しています。

「平成18年度水質検査計画」では、合併により、高松市の区域が拡大したことに伴い、検査箇所を大幅に増やし、細やかな水質検査を行うようにしました。合併後、新たに高松市となった地域でも、水道局水質管理センター職員が、採水・水質検査を行います。

水道水は、毎日使うものだからこそ安全で良質なものでなくてはなりません。お客さまのニーズに応え、安心して使用していただけるよう、水道局では今後とも水質検査の内容や体制の充実により一層努めてまいりますので、是非、水質検査についての御意見、御要望をお寄せください。

水質検査計画から 毎日検査、確認方法

水道水は、法令により、水質基準項目の検査以外に、1日1回以上、色・濁り・消毒の残留効果の検査をすることが義務づけられています。水道局では、毎日、配水池と38箇所の給水栓で、色・濁り・消毒の残留効果を検査、確認しています。検査、確認地点は、各水系の末端部分となるように選定しています。これらの検査により、高松市内全域で色・濁りに異常がないこと、消毒効果が持続していることを確認しています。さらに、月1回、水質基準項目のほか詳しい検査を行っています。

毎日検査地点

- 配水池毎日検査地点
- 給水栓毎日検査地点

水質検査結果を公表しています

平成17年度水質検査計画に基づき、水質検査結果を高松市水道局ホームページに掲載しています。お客さまにお届けしている水道水の水質を検査した結果、全て水質基準値内で安全性が確認されています。どうぞ、安心してお飲みください。

ホームページアドレス <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/691.html>